

「新発田で

暮らせてよかった、

「新発田に

生まれてよかった」

市民の皆様にもそう思っていてただけるよう、

さらに未来の新発田市民にも

喜んでもらえるよう、

これから全力で

「住みよいまち日本一、

健康田園文化都市

新発田」の創造に

取り組んでまいります。



二階堂
かおる

まちづくり実行プラン Ver.5

発行／令和8年10月20日



二階堂かおるの思い

これまで、4期16年間にわたり「住みよいまち 日本一、健康田園文化都市 新発田」の創造を掲げ、「健康長寿」「産業振興」「少子化対策」「教育の充実」を重点施策とし、まちづくりに邁進^{まい}してまいりました。

地方都市の人口減少に歯止めがかからぬ中、新発田市は人口の社会減において、上記4つの重点施策の相乗効果で、減少から増加に転じています。つまり「新発田で暮らしたい」「新発田で子育てしたい」という人が集まり、『選ばれるまち』へと着実に歩みを進めているのです。実績として、新潟県内自治体の人口数で、新潟市、長岡市、上越市に次ぐ4番目となりました。

また、全国では危機的な財政状況に陥っている自治体もありますが、新発田市は的確な財政計画により、健全財政を堅持しています。

市の収入の「市税」や国からの「交付金」等は安定しています。一方、支出は人口規模や収入の範囲内で「健康長寿」「産業振興」「少子化対策」「教育の充実」を中核として、適切に配分しています。市の借金「市債」はありますが、計画により毎年の返済額をなるべく平準化し、無理のない財政運営をおこなっています。結果として、災害発生などのいざというとき、迅速かつ的確に対応するための市の貯金「財政調整基金」は確保できています。

市民の皆様の『大切な生命と財産を守る』という市長としての役割を果たすため、引き続き健全財政を保ってだけでなく、現在の新発田市から未来の新発田市までを見すえ、先駆的で効果的な新発田のまちづくりに向け、3つの施策に特に力を注いでまいります。

- ① 国の新たな「福祉サービス・保健医療サービス等利用援助事業」の実施に先立ち、高齢者等の実態を把握し、効果的な支援体制を構築します。
- ② 日本最先端の「スマートアグリシティしばた」実現に向け、産・官・学連携のコンソーシアム（共同事業体）を立ち上げます。
- ③ 安心して子どもを産み育てられ、子どもにやさしいまちづくりをするため、「福祉と教育」の連携を図ります。

「住みよいまち日本一、健康田園文化都市 新発田」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

まちづくりを進める

1 健康長寿

■ まちづくりの基本は健康長寿にあり

3期目に着手した「健康長寿アクティブプラン」で、健診時に加齢に伴うフレイル予防をはじめとして各種対策を実践してきました。このことで、国・県では増えるばかりの介護認定率は減少、がん検診受診率は向上、幼児のむし歯や高齢者の残歯率は改善するなど、はっきり効果が出ています。

人口減少と超高齢化は待ったなしですが、市民の皆様が健康に暮らせていると感じられる、頼れる身寄りがないにいても住み慣れた地域でいきいき暮らし続けられるよう、地域・学校・企業・関係機関と行政が「オールしばた」体制で『健康長寿のまちしばた』をさらに進めます。

2 産業振興

■ 新発田の基幹産業は農業にあり

豊かな水資源・肥沃な大地は先祖から受け継いだ大切な宝ものです。この大地をいかした稲作を基本に、イチゴ・新発田牛などの新発田ブランド農産物を作り上げました。新たな販路を切り開くため、「米の輸出」をスタートし、現在は年間約500トン（八千三百俵）をニューヨークやロサンゼルスなど海外9都市に輸出しています。4期目は国の施策に先立ち、オーガニック（有機）米の産地形成に挑み、現在20トン（三百俵）を高価格でハワイに輸出しました。

しかし、高齢化による離農が加速し、耕作放棄地の増加が心配されています。農作業の省力化・効率化などを目指して民間企業や大学・研究機関によるコンソーシアム（共同事業体）を立ち上げ、日本最先端の『スマートアグリシティしばた』を目指します。もちろん、鳥獣害問題にも力を入れて取り組みます。



4つの重点施策

3 少子化対策（子育て支援）

■ 新発田の未来は子どもたちのために

未来になう子どもたちが健やかに育ち、地域に愛着と誇りをもって夢や希望に向かっていけるよう、1歳児以上の保育料無償化・高校生までの医療費無償化・子育て応援カードなど、さまざまな事業をいち早く立ち上げました。引き続き安心して産み育てられる環境づくりに向け、「切れ目ない支援」にゆりみがないか見直します。また、多様なニーズに応じた妊産婦や子育て支援の充実に加え、援助を必要とする家庭に迅速な支援をおこないます。

併せて、「子育てするならやっぱりしばた」と若い世代が夢をもってライフプランを描けるよう、『子どもを安心して育てられるまちしばた』をさらに進めます。

4 教育の充実

■ ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育

互いに尊重しあう心をもって、夢や希望に向かって学び続ける子どもたちを支えるため、学力の向上はもちろん豊かな心と健やかな身体を育む取組を進めてきました。いじめ発生や自死防止対策であるCAPプログラムの実施、特色ある「人権教育」「同和教育」および「食育」に加え、新発田オリジナルの不登校対策「車野校」を拠点として、教育的な配慮が必要な子ども・保護者に対してスクールソーシャルワーカー、コミュニティスクール等の支援体制の充実に向けて取組を強化します。

多様性を尊重し、しばたの心を継承するため、地域の皆様のお力をお借りして『子どもが輝くまちしばた』をさらに進めます。



1 選ばれるまちづくり (健康長寿と子育て支援)

就任当初から一貫して目指してきたのは「住みよいまち 日本一、健康田園文化都市 新発田」の実現です。「安心して子どもを産み育てられる」「生まれ育ったまちを誇りに思う」「年をとっても住み慣れた地域でいきいき暮らし続けられる」。

このことは、私の目指すまちづくりに欠かすことはできません。これからも実現に全力を尽くします。



切れ目のない 支援体制の拡充

希望する結婚～妊活・不妊治療～妊娠～出産・ネウボラ（かかりつけ保健師）～産後ケア～乳幼児健診・発達相談～小学校入学までを一連の流れとしてとらえ、ライフプランを思い描く段階から、それぞれの段階で必要とされる支援制度を整え、ニーズに添えるよう、常に見直し、拡充します。



パパ・ママ教室の増設

子どもをもつ喜びを感じ、育児に関する具体的なイメージを出産前にもっていただけるよう「初めてのパパ・ママ教室」増設を官民が連携しておこない、アプリやチャットも活用した育児手帳や定期予防接種管理など、デジタルネイティブ世代の子育てを支えます。また、保育料全額無料化に向け、引き続き努力します。

子ども家庭センターの 機能を強化

いち早く設置した「子ども家庭センター」では産後ケアも、市の直営で取組を進めています。また、虐待防止や支援を要する家庭などへの迅速・適切な対応はこれからも進めていきます。

さらに、要支援妊婦の急増や発達相談件数の増加を受け、より専門的な助言とサポートへ結びつけるため、臨床心理士を配置します。

健康寿命の延伸

健康寿命の延伸に向け、引き続き「健康長寿アクティブプラン」に基づき、生きがいつくり・加齢に伴うフレイル予防・口腔ケア推進のために、各種健診を活用するとともに、地域の「ときめき週一クラブ」「いきいきサロン」や老人クラブなどの皆様と連携した取組を進めます。

身よりなしへの 支援体制の確立

頼れる身寄りがいない高齢者等が安心して自立した生活を送れるよう、また、判断能力が不十分な方の地域生活を支えるため、総合的支援体制を確立します。入院・入所手続き、死後事務などへの需要があることから、高齢者現況調査などで具体的なニーズを把握し、加えて PUSH 型の情報提供を実施して、新発田市オリジナルの仕組みを新発田市社会福祉協議会や民生委員・児童委員連合会等と構築します。

「8050」問題への対応

生きづらさを抱えた方やご家庭の困りごとに早い時期から寄り添うことが求められています。市社会福祉課のみならず、健康・介護・教育・子育てなどあらゆる分野の職員が、市民の声を真摯にお聞きし、民間組織の皆様と連携・協働しながら、本人や家族の困りごとを軽減します。

2 持続可能なまちづくり (ゼロカーボンシティ新発田の実現)

各地で豪雨災害が頻発するなど、地球温暖化は日々の暮らしや備えを変えるまでに差し迫っています。行政が先頭に立ち、電気自動車やハイブリッド車への入れ替え、防犯灯・街路灯のLED化、公共施設での自然エネルギーの活用などは当然の流れです。民間事業者や一般家庭でも二酸化炭素排出を意識的に抑制・削減いただくための啓発活動に加え、ゼロカーボン導入に向けた各種の支援策を充実します。

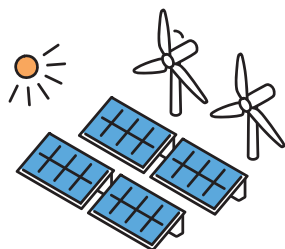


チャレンジ ゼロカーボン補助金の拡充

皆様が導入する太陽光発電設備・蓄電池・高効率空調機器、民間事業者が導入する同施設やLED照明機器・施設園芸用の地中熱利用設備への補助制度を拡充し、二酸化炭素の排出抑制に努めます。また、対象施工事業者を市内業者とし、新発田地域の経済活性化にもつなげます。

再生可能エネルギー由来の電力を 公共施設で積極的に活用

2030年までに公共施設で消費する電力をすべて太陽光や風・水力などの再生可能エネルギーに切り替えるように促します。また、公共施設では軽くて柔らかなペロブスカイト式太陽光パネルを設置し、エネルギーの地産地消を加速します。



再生可能エネルギー 関連の取組

自然環境や景観保全・災害の未然防止など、安全安心な生活環境の確保を目的として、民間企業による市有地や市管理河川での太陽光発電や小水力発電などを誘致します。

ごみ排出量の削減と リサイクルの推進

ごみの排出量をさらに減らすため、市民啓発を進めます。また、民間企業と連携し、産業廃棄物や事業系ごみの削減を支援します。さらに、食品残渣は市有機資源センターの処理能力を引き上げ、有機堆肥の生産量を一層増やします。

併せて、子どもたちへの環境教育として、新発田市独自の資源循環の取組について、施設見学などを含めて実施します。



蛍光灯生産中止に伴う LED設備化を支援

蛍光灯の製造販売中止に伴い、企業等が行うLED設備への改修工事などについて、費用の一部を支援する制度を検討します。

森林環境譲与税の 有効活用

公共施設では市産木材を積極的に活用し、市内林業事業者の支援に役立てます。一方、森林環境譲与税を利用して、森林管理の適正化・植林・植栽などの森林保全に努め、二酸化炭素排出量の削減を積極的に進めます。



3 賑わいあるまちづくり (観光振興や市街地周遊など)

「観光」は他国や地方の風景・史跡・風物などの見物から、近年では余暇・レクリエーション・業務などを問わず、日常生活圏を離れる旅へと意味合いを変えています。私たちが有する歴史・文化は、新発田藩溝口秀勝侯入封から 400 年以上を経て、今なお脈々と続いています。「新発田に来なければ体感できない、新発田だけの『もの・コト・とき』」をさらに磨き上げます。



月岡温泉を拠点として 市街地回遊を促進

県内随一の温泉地月岡温泉に宿泊しても、街なかを訪れない宿泊者が多数います。中心市街地には新発田城や蔵春閣のランドマークがあり、令和 10 年度に土橋門を復元します。この機を逃さず、市有文化財や民間観光施設の共通入場券発行をはじめ、市街地での飲食や土産購入促進など観光客の市街地回遊と経済効果の創出を進めます。

スタディーツーリズムや コンベンション誘致

新発田城や蔵春閣などの史跡や文化資源と新発田の産業を支える稲作を中心とした、最新のスマート農業・オーガニック農業なども観光資源として活用、体験型ツーリズムや先進地視察などのコンベンションと組み合わせて誘客を図ります。

インバウンド向けの 新たな商品開発

市内 5 か所のゴルフ場と月岡温泉宿泊を楽しむプランは大好評です。市固有の観光資源を掘り起こし、新たなプランとして造成し、インバウンドの誘客を図ります。また、小中学校での給食体験など、海外の子どもたちへ新たな体験を提案する新発田発のスタディーツーリズムを造成します。

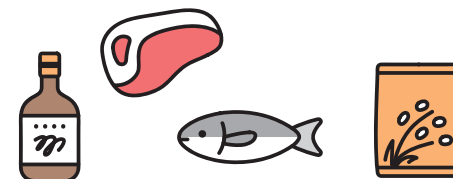
ふるさと納税の 効果的活用

ふるさと納税制度は、今や重要な収入源の一つです。特産品のお米・イチゴ・新発田牛や月岡温泉はじめ、周辺ゴルフ場をアピールする場にもなっています。さらに、特徴的な産品等の返礼品を充実させ、総額 20 億円を目指し、知名度と経済波及の相乗効果をねらいます。

シティープロモーションと 移住定住促進策

城下町の歴史、山から海までの自然やその恵みを受けて収穫される農産物など、新発田の魅力を全国・全世界へ発信するシティープロモーションおよび移住・定住促進や関係人口・交流人口の創出が重要です。

市内の地域おこし協力隊の皆さんの力も借りながら新発田の魅力を発信し、新発田で暮らし続けるために、仕事・住居・子育てなどを全面的に支援する仕組みを構築します。



新発田ならではの ブランドを守る

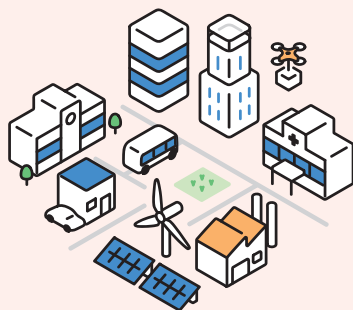
「思い出は味覚にあり」。名物料理が持つ潜在能力の高さは、令和 7 年の「ももクロ春の一大事」で、モノノフの皆さんが証明してくれました。しかし、洋食・ラーメン・郷土料理などの老舗は姿を消しつつあります。高いハードルはありますが、新発田ならではの名物料理を守り、事業を継承する仕組づくりに着手します。

佐々木駅周辺 整備事業の促進

JR 新発田駅や JR 西新発田駅に続く重点整備として、通勤通学時間帯の混雑緩和に向け、JR 佐々木駅周辺の整備に着手します。近隣の大学生や高校生をはじめ、隣接する聖籠町民の利用も多いことから、安全でスムーズな移動空間の確保と利便性の向上を図り、駅周辺の円滑な交通環境の構築を目指します。

4 いきいき便利なまちづくり (地域防災、公共交通など)

市民の皆様の安全安心な暮らしを全力で支えています。自然災害を避けるすべは今のところありません。しかし、防災・減災や見守り・防犯の取組で備えることはできます。自治会連合会や関連団体などの知恵と知識を結集し、地域力を活用します。また、中心市街地と各地域、月岡温泉などの観光地と結ぶ持続可能な公共交通を運行し、「山から海までの大自然と城下町新発田の魅力」をさらに磨きます。



迅速な情報発信と被害の最小化

迅速な情報の共有と発信により、自然災害からいち早く市民の皆様の生命・財産を守ります。また、市街地の雨水対策をはじめ、河川整備などは国・県に要望します。さらに、個別避難行動計画策定を加速するため、自治会・町内会に対する助成金に加え、人的な支援制度を新たに追加します。



空き家対策を促進

空き家・空き地問題は全市に関わる課題です。世帯分離～高齢化～入院・施設入所～相続などは人生の節目に生じやすいと理解した上、自治会連合会等と連携して、気づき・情報共有・相談・早めの対応によって「頭の痛い地域の課題」から「地域の未来を考える資源」へ変えていきます。

起業・創業や事業継続を支援

中心市街地の空き店舗率は5年前に比べて30.2%から23%に減りました。NPOや民間事業者等の取組の成果が表れてきているのです。今後も、官民のそれぞれが役割をにない、起業・創業や事業継承、民間による再開発事業などを支援し、まちの輝きを取り戻します。

自治会機能をサポート

市内の自治会・町内会や各集落では、高齢化や人口減少の影響から、共同作業や地域活動の停滞が見受けられます。市民の皆様にとって、自治会はもっとも身近な相談相手であり、コミュニティ（共同体）であることから、自治会組織の継続と発展のため、積極的に活動を支援します。



高校生や大学生の提案をまちづくりに活かす

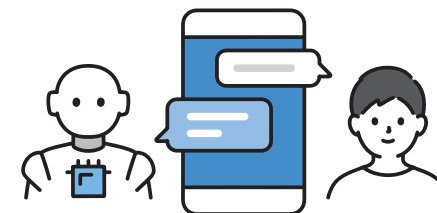
市内に高校・短期大学・大学がある地域特性を活かし、学生たちが企画を提案する「まちづくりドラフト会議」から個性的な取組が生まれています。今後も、若者がまちづくりに参画する機会を増やし、魅力あふれるまちづくりを目指します。



皆様の意見をまちづくりに活用

市民の皆様の意見を「まちづくり施策」に反映していけるよう、計画策定の場合への市民参画や市長への手紙を活用し、開かれたまちづくりを進めます。

また、AI（人工知能）を活用し、業務をできるだけ効率化することで、市民の皆様の声をじかに聞き、対応にあたる大切な時間を増やします。



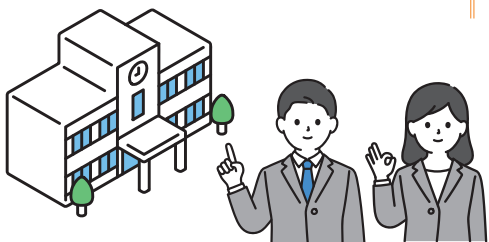
5 新発田の強みを活かしたまちづくり（産業支援、雇用者支援など）

新発田で安心して暮らすためには、魅力的で安定した仕事が必要です。また、近年は求人しても思うように人が集まらず、経営の継続が危ぶまれる企業なども増えています。企業と就職希望者とのマッチング機会を増やすなど、首都圏などからの移住者への就職先紹介機能や、キネス天王とキネス本田を拠点としたスタートアップ支援なども拡充します。



廃校舎などへの企業誘致

全国で廃校舎などの活用が課題になる中、当市は廃校舎を負の遺産とせず、シェアオフィス・先端企業の研修や研究室として活用、地域の宝ものとして活かしています。また、箱岩地区の広大な用地も今後、活用を目指します。



スマートアグリ・コンソーシアムの創設

高齢化による離農が増えています。行政・民間企業・大学・各種研究機関によるコンソーシアム（共同事業体）を立ち上げ、日本最先端の『スマートアグリシティしばた』を目指すことで、農業経営の効率化・省力化を進め、新規就労者などの支援をおこないます。

キネスを拠点としたスタートアップ支援

キネス天王・キネス本田は先進農業やIT関連企業などが入居するシェアオフィスです。「新発田で起業したい」「事務所を移転したい」などの要望に応えるため、各種補助金や入居企業からの助言や経営に役立つ情報や交流機会を提供します。

農産物等のさらなる輸出支援

市内の農畜産物は品質が高く、市場でも高い評価を得ています。一方、天候不順や米価の乱高下による減収が農業経営を直撃しています。お米の輸出で経営安定化を進めていますが、お米だけでなく、日本酒や米菓や畜産物・新発田牛なども積極的に海外に販路を広げます。



オーガニック(有機)栽培の産地化と高価格販売

国は2050年までに全農地の25%をオーガニック（有機）栽培にする「緑の食糧システム戦略」を策定しましたが、国内にはマーケットが少なく、販路は限られています。当市はいち早く海外販路を開拓し、オーガニック米をハワイに高価格で輸出しています。引き続きオーガニック米の産地を拡大し、キネス本田でのLEDによるイチゴのオーガニック栽培や高機能キノコの室内栽培などを進め、高付加価値かつ高価格で販売できる販路の開拓を進めます。

移住定住促進の就職マッチング

移住定住を進めるには、まずは働く場所の確保が必須です。移住希望者の要望に応えるために、市内企業と連携して、求職者の希望や技術と企業の求める人材や条件を適合させるデータベースなどを作ります。また、首都圏での交流会やセミナーにも積極的に参加します。

シティープロモーションの促進

中小企業や飲食店などの人手不足は深刻で、募集してもなかなか人は集まりません。当市は「住んでよし」「子育てしてよし」「働いてよし」の環境整備を進めていますが、情報発信やPRは十分とは言えません。このことから、専用YOU TUBEチャンネルを立ち上げ、情報を直接発信するシティープロモーションを進めます。

6 子どもたちが自分らしく暮らせるまちづくり (教育・芸術・文化など)

子どもたち一人ひとりの個性や感性と向き合い、互いの違いや多様性を認めあって自己肯定感を高めるとともに、他者の意見や生き方にも寄り添い、敬いあえる心と身体を育みます。また、スポーツや文化活動では、新発田から全国さらに世界へ、大舞台を目指せる機会を作ります。大切な新発田の子どもたちを市民の力、地域の力でしっかりと支え育てる「しばたの心継承プロジェクト」を推進します。



◆ 子どもを守り育てる対策の徹底

子どもたちは「～してはいけません」ではなく「～することができる」と行動選択を学び、教職員は子どもの人権尊重や暴力防止の知識や支援方法を学び、そして保護者には子どもを守る知識や行動の選択肢を学ぶCAPプログラムを実践し、いじめや自殺対策を徹底します。

◆ 学校給食の支援

中学校の学校給食は、小学校同様に国の支援を求め、全額無料化に向けて努力します。

◆ 不登校とひきこもりへの対応

不登校やひきこもりの子どもへの新発田オリジナルの対応「車野校」の取組は、全国から注目されています。農作業やアート作品づくりなど、地域の皆様とのふれあい活動を通じ、心と身体の安定と自らの可能性を見出す後押しをします。また、市内小学校からコミュニティスクール（校内支援センター）の取組に着手し、車野校同様地域の皆様の力をお借りして、子どもたちの新たな居場所づくりを進めます。

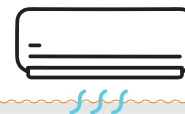
◆ 学力の向上対策の推進

標準学力検査（NRT）で子どもたちの学力を把握し、「15の春を泣かせない」の気概を込めて学力向上に努めます。また、教育センター指導主事の活動等で、日常的な授業の改善指導や教科教材の開発など、教職員への指導にも力を入れていきます。



◆ 小・中学校体育館にエアコン設置を検討

小・中学校体育館へのエアコン（空調）設備設置は、子どもたちの教育環境の向上のためには欠かせない施策です。しかし、整備には多額の費用がかかるため、例えば避難所に指定されている施設などから、順次実現を目指します。



◆ 個性と多様性を尊重する支援体制の構築

多様な特性をもつ子どもの増加や障がいのある子への対応、生活環境に課題を抱える家庭にしっかり向き合えるよう、専任教師を配置する通級教室やスクールソーシャルワーカーの充実を進めます。さらに、保護者の相談対応など一連のサポート体制を統括する部署を教育委員会内に新設し、教職員の負担軽減に努めます。また、福祉関係団体等との連携体制を構築し、多様性の時代に見合った支援に結びつけます。



◆ 新発田城周辺整備の推進

新発田城、そして土橋門復元などを含む新発田城周辺整備を着実に進め、歴史資料館の整備を目指し、郷土愛をさらに深め、地域の歴史・文化を後世まで誇れるまちづくりに努めます。また、蔵春閣などの建造物や歴史的資源の古文書・工芸品等、これまで受け継がれてきた文化遺産・文化財を保全・公開し、「保存と利活用」の両輪で取組を進めます。

■ 前頁までが大まかな私の政策プランです。皆様からのご意見は大いに歓迎いたします。よい案は積極的に取り入れて政策に反映したいと思います。

聞かせて下さい、
あなたの声を！



にかいどう 二階堂かおる

◎ご意見の宛て先

FAX 0254-28-0338 ✉ nikaido-k@aroma.ocn.ne.jp

プロフィール

昭和 27 年 2 月 15 日、新発田市菅谷で生まれる（「角米沢屋」）
昭和 42 年○菅谷中学校卒
昭和 45 年○新発田商工卒
昭和 48 年○拓殖大学政経学部中退
昭和 49 年○新潟調理師専門学校卒・その後割烹魚喜久にて板前修業
昭和 54 年○新発田市議会議員初当選（27 歳）・以来当選 8 回
昭和 63 年○(社)新発田青年会議所第 30 代理事長に就任
平成 3 年○新発田市議会議長初就任・その後計 4 期（9 年）議長職を務める
平成 22 年○新発田市長に就任（現在 4 期目）
令和 3 年○新潟県市長会会長に就任
令和 7 年○全国市長会副会長に就任

議会実績

平成 4 年＊新発田市・豊浦町及び新発田市・聖籠町議員協議会設立（広域合併の推進）
平成 20 年＊新発田市中心小企業活性化推進基本条例制定（地元企業の育成）
平成 20 年＊新発田市議会基本条例制定（議会報告会の開催）（議会改革と活性化）

政治信条

- ①市民の皆さんとの対話、議会での議論、行政との情報交換、すべては**対話**が基本です。
- ②現場目線・市民目線を大切に、互いの**信頼**関係にもとづいて、問題点を解決します。
- ③問題点の解決は、現在のみならず、将来のあるべき姿、先見性をもって決断・**実行**します。

子どもたちのこの笑顔！
みんなの宝ものです



市民参画、共働のまちへ！

産業振興は人口減ストップの肝。
農産物を輸出し、外国人観光客を呼び込みます。



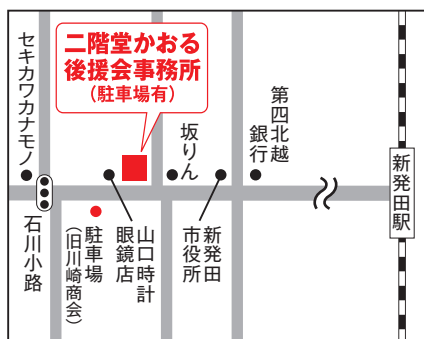
赤ちゃんからお年寄りまで、「健康・
長寿づくり」を加速させます。



教育の充実のため小中
学校体育館にエアコン
を整備します。



人まかせでは子どもたちに
住みよいまち新発田は手わたせません。
市民も企業も行政も
みんなが一緒になって考え、行動しませんか。



二階堂かおる後援会事務所

〒 957-0053 新発田市中央町 3-7-14

TEL.0254-28-0330 FAX.0254-28-0338